

1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0872100532		
法人名	株式会社 不動産管理センター		
事業所名	グループホーム ひたちなかほのぼの		
所在地	茨城県ひたちなか市津田東1-9-1 (電話)029-275-6559		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 8人, 非常勤 5人, 常勤換算	10.5人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 135 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	0名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 74.4歳	最低	63歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	尚仁会クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地の中に位置している。周りには学校や幼稚園、公民館、スーパーが、歩いていける距離にある。自治会に加入し、地域活動に積極的に参加されている。地域からは、地域のイベントへの参加呼びかけがあり、地域の中での生活にとけ込んでいる印象がある。利用者は、個々のペースでゆっくりと穏やかな生活を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、看取りについて、家族の承諾を受けるようにした。また、利用者の状態から、家族との相談が多く出来るように取り組んできた。介護計画は、一人ひとりの日々の記録に添付し、すぐに確認できるようにした。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の意見を聞き、管理者がまとめて作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、3ヶ月に1回開催している。参加者は、地区長・民生委員・行政・家族等。ホームの取り組み、利用者の状態報告、ホームのイベント等、報告し意見交換している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に、利用者の生活の様子など、広報紙を作成して郵送している。利用者の状態について必要時電話連絡している。家族の意見や苦情に対しては、職員間で話し合い、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のイベントへの参加、近隣のボランティアの受け入れ、小学生のボランティアなど交流が持たれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	忘己利他の気持ちを忘れず、利用者が今までと変わらない地域での生活が出来る支援を心がけている。地域に密着した独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1週間に1回のミーティングを行い、問題・ケアの取り組み方等話し合っている。職員が理念の共有を確認することで、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の一員として、地域活動に参加している。子ども会では、ホームの前でおみこしをかついで、利用者を楽しませてくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価は職員に回覧して確認してもらった。指摘を受けたことについては、職員間で話し合い、改善できるよう取り組んできた。今回の評価については、職員の意見を聞き、管理者がまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括センター・自治会長・民生委員・後継人など参加していただき、ホームでの内容・事例など報告し、理解してもらうようにしている。また、意見交換をして、ケアのサービスに努めている。		職員も会議に参加することで、意見交換の場を作る。または、議事録を職員に回覧することで会議を開催する意義を理解し、ケアの向上に期待したい。

茨城県 グループホームひたちなかほのぼの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>社会福祉課や高齢福祉課等に相談したり、市との関わりを大切にし、サービスに取り組むよう心がけている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年4回のほのぼのだよりを家族に郵送している。利用者の状態の変化時はその都度電話で報告している。金銭管理については1ヶ月ごとに報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設けて、家族からの苦情を受け入れるようにしている。まだご意見箱には苦情は入れられていない。意見等は面会にきた時に言われるため、職員と話し合っ解決するようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>家庭の都合で退職する事があったが、利用者には触れる事が無いように対応した。</p>		<p>利用者との信頼関係をなくすことのないように、聞かれたら、動揺しないように説明する配慮を期待したい。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修のお知らせは回覧し、積極的に参加されている。研修後は、職員間の共有を計るために、伝達する機会を設けている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列の小規模多機能との交流がある。</p>	○	<p>他のホームと交流を図り、お互いに学び合い、質の向上につなげていけることを期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所は1週間ぐらいから1ヶ月以内、家族と利用者で相談しながら行っている。見学はいつでも出来るようになっている。近所からは、介護の相談があり、対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で昔の風習や知恵など教えていただいたりしている。また、利用者が、職員の健康を気遣ってくれて、励ましてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を出来る限り行えるよう心がけている。職員間では難しいことなどは、家族に相談し検討する時もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別的な介護計画が立案されている。立案された介護計画は、家族に承諾を受け、意見等を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間内に、計画に沿って評価修正されている。		見直しになった時点で、評価したという個人記録が載せていない。誰が評価したのか、話し合いに参加したメンバーのサインがあることが望ましい。

茨城県 グループホームひたちなかほのぼの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話しやすい環境作り、相談等対応している。また、同系列の小規模多機能を活用して、柔軟な対応に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に1回の往診がある。状態が悪い時は、その都度、受診支援をしている。また、24時間、医師の指示がもらえるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を伺いながら、相談している。状況によっては、他の施設に異動していただくことも話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応について職員間で気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を、無理せずペースに合わせて支援している。日々の暮らしを大切に職員は、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年々、ADLの低下がみられてきているが、一人ひとりの力を活かしながら食事の準備等行っている。利用者はお互いに気をつけながら、和やかに食事を摂取されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴である。入浴時間は午後からである。状況に応じて、シャワー浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の行事などで、今まで行ってきた習慣を取り入れ、作り方を教わったりしている。昔の出来事など教えてくれる時の利用者の表情は生き生きとしている。出来る限り、利用者の楽しみ事となるよう支援している。		一人ひとりの現存能力の見極めを行い、利用者の役割、楽しみを支援できるように期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やお祭り、利用者の希望に添えるよう、支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は安全性を考慮して、施錠している。庭にはいつでも出られるようになっている。		昼の時間帯で見守りできる強化体制を、職員間で考えていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年数回の自主的な避難訓練は行っている。消防からの指導も受けている。今後、運営会議の中で、地域の協力を受けられるように働きかけて行きたいと考えている。	○	地震や備蓄品について、職員間で話し合っ、安全性の意識づけを期待したい。

茨城県 グループホームひたちなかほのぼの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が一人ひとりわかりやすく記入してある。利用者の状態に合わせた、水分補給を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にし、家庭での居間で過ごしている環境に近づくよう工夫している。畳があり、外からの光も充分にはいつている。ゆったりとして過ごせる空間が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家で使っている、馴染みの物がおいてあり、利用者が居心地よく、生活できるように配慮されている。		